



## リアルタイム被害予測ウェブサイト「cmap」に避難先情報を掲載

～真の防災プラットフォームを目指して～

2021年8月5日

MS&AD インシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：金杉 恭三）は、リアルタイム被害予測ウェブサイト「cmap（シーマップ）」の新機能として、災害発生時に備え避難場所や避難所の混雑状況などに関する情報を cmap およびそのアプリで8月から公開します。

### 1. 背景

気候変動による大規模災害が常態化している昨今、災害発生時に地域住民が身の安全を確保できる避難先の情報を速やかに把握できることが重要です。しかし、災害発生時には情報が錯綜し、最寄りの避難先に避難した結果、収容人数を超える住民が集まるなど、避難行動が遅れる懸念があります。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、避難先の収容人数が削減されるなど、新たな課題も発生しています。

そこで、避難場所や避難所\*を平時より簡単に確認できるよう情報を拡充し、災害発生時には避難所の混雑状況も cmap 上に表示させることで、地域住民の速やかな避難行動を支援できる機能を追加しました。

※ 避難場所・避難所について：「避難場所」は災害から命を守るための緊急避難先で、「避難所」は災害の危険がなくなるまで必要な期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった住民等が一時的に滞在する施設をいいます

### 2. 新機能の概要

#### (1) 避難先情報を追加

ファーストメディア株式会社（代表取締役：山崎 佳一）が提供する「全国避難所ガイド」から約 15 万件の避難場所・避難所情報を取得し、cmap に表示します。施設名称を地図上で明示し、ポップアップ内にグーグルストリートビューを表示するなど、簡易な操作で避難先情報を確認することができます。

#### (2) 避難所の混雑状況を表示

株式会社バカン（代表取締役：河野 剛進）が提供する 150 超の地方公共団体が管理する避難所 1 万件以上の混雑状況を cmap に表示します。各避難所の職員が入力するなどした混雑状況をリアルタイムで cmap の地図に反映することで、いざという時の避難行動を支援します。



<参考：従来機能・新機能の概要>

	被災地はどこ？（速報） 	現在地のリスクは？ 	避難先はどこ？ 
従来機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物被害予測（台風、豪雨、地震等の自然現象による陸上の被害を建物分布で可視化）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>警戒レベル 4・5 相当地域明示</li> <li>水文解析 Today' s Earth-Japan</li> <li>ハザードマップ（洪水等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所等、合計 11 万件（アプリ限定機能）</li> </ul>
新機能	<p>&lt;6月実装済&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気象・災害・ライフラインに関する SNS 情報を表示※2</li> </ul>	<p>&lt;6月実装済&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害対策基本法改正に伴い、「高齢者等避難」と定義された警戒レベル 3 相当地域も明示</li> </ul>	<p>&lt;8月新機能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>避難場所・避難所合計 15 万件（ウェブサイトでも表示）</li> <li>避難所の混雑状況を表示（地方公共団体の事前申込制）</li> </ul>

### 3. 今後の展開

平時から災害に対する意識を高めさせていただくため、アプリ版 cmap の UX 向上を今後検討していきます。また、当社が連携協定を締結している地方公共団体や研究機関・大学等と共に、防災・減災に役立つ情報・機能を拡充し、真の防災プラットフォームの構築を目指していきます。

	cmap 紹介サイト(cmap のウェブサイトもアプリもこちらから利用頂けます)
	<a href="https://www.aioinissaydowa.co.jp/corporate/service/cmap/">https://www.aioinissaydowa.co.jp/corporate/service/cmap/</a>

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。

